

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー 2階ユニット		
所在地	松江市津田町313		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町村受理日	平成25年1月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16
訪問調査日	平成24年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が自由にあるがままに『普通』の暮らしが送れるように、職員は日々寄り添い、思いを共有し1人ひとりが自信と誇りを持って過ごせるように努めています。今年度は地域の行事や公民館活動にも多く参加することが出来、地域との絆を深めることが出来たと思います。今後も交流を積極的に図り、地域に根差した施設を目指したいと考えています。また日常の健康管理面においては、看護職員の配置や併設する診療所医師との連携を密に図りながら、入居者様の毎日の健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念を作り、毎月のミーティングや日々の対話の中で日常的に話し合い、共有を図り実践に繋げている。	管理者が変わり約1年。原点に帰るということでより具体的なものになるよう、理念の見直しを実施。新人職員の研修の場でも取り上げ、職員間でも日常のケアの場で実践できるよう取り上げられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	今年度は町内会に加入し、公民館の寄り合いにも参加出来るようになった。事業所近くの飲食店の利用や買い物などを行い、地域との交流に繋がるようにつとめている。	公民館活動への参加の機会が増えたり、学生さんの受け入れ、民生委員や福祉推進委員の見学を兼ねた研修会の開催等、積極的に地域との交流の機会を増やしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験学習の受け入れの他、今年度は地区の福祉推進委員より要請を受け、施設見学を兼ねた研修会を開催することができた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや運営状況などを報告し、会議の中で出た意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	2,3ヶ月に1回のペースで開催中。前回の質問に答える形が主だが、アイデア料理の紹介や試食会なども取り入れたりと、参加者が興味を持てるような内容に挑戦中。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を利用する他、必要に応じて市役所の窓口や電話での相談も行っている。	運営推進委員会へは毎回参加してもらい、意見を求めている。現状についても理解してもらっており、良い関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会による定期的な研修の実施や外部研修への参加などにより、身体拘束に関する知識を持ち、理解した上で日頃のケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会は定期的に行われている。今年度は新人研修でも言葉による制限、拘束ということで、スピーチロックを取り上げたりして内容の充実を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を定期的に行い、高齢者虐待の知識を深め、虐待につながる行為や言動が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で権利擁護に関する制度の理解に努め、家族から相談があった場合、助言や情報提供が出来る体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族と十分に話し合い、疑問点については納得して頂けるよう説明を重ね、不安や心配が残らないよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中や、入居者自治会において、入居者様の要望を汲み取るように働きかけている。また家族の来訪時には必ず声を掛け、意見や要望等を聴くようにしている。	月1回の入所者自治会では食事や楽しみごとを中心に盛んに意見が出ている。家族には、面会時やプランを送った時や、外出の際などに意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体でのミーティングの他、ユニット内でのミーティングを随時行い、意見や情報交換を常に行えるようにしている。	日々のミーティングや記録の時間など、いつでも意見交換ができるよう、新人でも意見が言いやすいように声がけしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のミーティングには必ず代表者も参加し、職員が直接意見や要望を伝えることが出来る場を持っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けた支援体制あり。各自の力量を把握した上で、外部研修へ参加する機会をもてるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松江市のグループホーム部会への参加や、他施設の行事に参加するなどして情報交換や交流の場を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族との面談を行い、不安に思っている点や今後の生活に関する要望などしっかり受け止め、安心できる環境づくりが出来るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人、家族から詳しい話を聞き、要望を把握するようにしている。些細なことでも聞き逃さず、事業所と家族との間での話し合いを多く持つようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難な場合には、本人や家族に対し、他のサービスについての情報提供が行なえるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として、家事や趣味などを共に行い、日々の生活を寄り添いながら思いを共有できる関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に対し、状況報告書を送付している他、外出の付き添いを依頼したり、ホーム内の行事に家族の参加を呼びかけるなど、交流の場がもてるよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や手紙、電話、年賀状の支援、また本人の希望する場所への訪問は家族の協力を得ながら行なえるようにしている。	駅に近く交通の便が良いこともあり、面会の方が多くなってきている。訪問時にはゆっくりできるよう配慮したりして関係の継続に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、居心地良く過ごして頂けるよう心がけている。また1人ひとりの性格に応じて、集団での関わりや他、個別の対応にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への転居や医療機関への長期入院時にも職員が面会に出掛けたり、家族からの相談にも応じたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の何気ない会話から本人の思いを汲み取るように努めている。困難な場合は、本人の表情などから訴えたいことを推測し、本人の求める暮らしに近づけるよう取り組んでいる。	センター方式を取り入れ、アセスメントがより充実したものになるようにしている。日頃の思いにできるだけ耳を傾けるよう、問題意識を持ってあたるように心がけている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に本人や家族、関係機関などから可能な限り多くの情報を得られるようにしている。入居後に得られた情報を記録し、職員間で共有の情報として日々のケアに活用できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの寄り添い共に過ごすことで、その時々々の状態や有する能力の把握に努めている。申し送り時には、個々に1日を通しての状況を伝え、情報は全員で共有できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合い、意見を反映した介護計画の作成を行っている。	担当を中心に聞き取りをし、ユニットに持ち寄り全員で情報を加えていき、チームで計画を作成するようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送り表への記載、連絡帳の活用など、情報は全職員で共有し、介護計画の見直しに繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族のニーズに応じ、外出や季節行事への参加など柔軟な対応を行なうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方や地区の民生委員等からの情報や助言を頂きながら、得られた情報等を活用出来るように取り組んでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医師または病院において適切な医療が受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医を継続している。受診時家族対応ができない場合は、職員が代行も行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は協力医療機関や利用者のかかりつけ医と連絡相談できる体制にあり、適切に受診や看護が受けられるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、医療機関に情報提供を行い、入院中は職員が定期的に面会に行き、状況確認を行い、早期退院に向けての支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期について事前確認書により意向を把握するようにしている。実際の段階ごとに家族を含め、医師、看護師、介護職員等で十分な話し合いを行い、より良い支援が出来るようチームで取り組んでいる。	本人、家族に個別に聞き取りを行い、話し合いの機会を持ち進めている。最後までできるだけのことをという職員の一致団結した思いもあり、終末ケアに対応できるよう、体制づくりを進めている。	重度化への対応や終末を迎える家族への対応等、ターミナルを行うに当たり、より幅広い研修を実施することで、チームで取り組めるよう検討いただきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署に依頼して緊急対応の講習を全職員で受けるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に通報・避難・消火等の訓練を実施している。地域との協力体制については、協力依頼はしているが、具体化までには至っていない。	一昨年の地震を期に耐震を行なった。訓練の定期的な実施や、市からのガイドラインをマニュアル作りの参考にしたり、ハザードマップを作り掲示したり、連絡網の充実など災害対策に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護について勉強会をしている。職員は目立たず、さりげない言葉掛けや対応に努めている。	新人職員はコミュニケーションについての外部研修に参加したり、プライバシーの保護等についても定期的に勉強会を実施している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向が確認出来るように、本人が選択出来る声かけを行い、自己決定が出来るよう援助している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々状態に応じ、その方のペースで過ごせるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で好きなものを選ぶように援助している。身の回りの品など、買い物には一緒に出掛け、自分で気に入ったものを購入してもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞きながら献立を作成している。買い物へは一緒に出掛け、食材を選んでもらうようにしている。食事の準備や盛り付け、片付けなど無理のない範囲でなるべく一緒に行なうようにしている。	昼食は買い物に出かけ、一緒に作っている。下準備、盛り付け、片づけなどそれぞれできることを、手伝ってもらっている。料理好きな方には活躍の場となっており、職員を交え楽しい食事時間になっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量を記録し、状態の把握に努めている。個々の体調やアレルギーへの対応、食事形態の検討及び変更も随時行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ、誘導を行っている。1人ひとりの状態に応じた介助を行い、口腔内の清潔が保てるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導によりトイレで排泄が出来るよう支援している。	個々に合わせてパターンを把握しトイレ誘導している。寝たきりでおむつ使用の人には、不快感を与えないよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎朝ヨーグルトを提供している。食事では食物繊維が取れるよう配慮し、合わせて十分な水分摂取が出来るよう気をつけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者は一応決めているが、本人の希望に合わせ臨機応変に対応している。1人ひとりの状態に応じて見守り介助を行なう方、少し離れた位置から見守る方など個別の援助を行なっている。	昼間の希望者が多いが夕食後の人、朝風呂の好きな方、湯のかけ方など、本人が希望する介助の人といった、本人の入り方にできるだけ対応するようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室のベットや共有空間のソファなど自由に休息がとれるよう配慮している。夜間は室温や掛け物調整を行い、心地よく眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容を確認出来るように個人ファイルに薬の情報を保管し、処方の都度、最新のものに入れ替えるようにしている。服薬時には複数の職員で確認し与薬している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で行なう毎日のレクリエーションの他、個人の能力を活かした個別の活動を実施している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿って外出できるよう、時には家族にも協力を求めて支援している。地域の祭りなどイベントに今年は多数参加することが出来た。	家族や以前勤めていた職員に声がけをし、協力を得ることにより、外出の回数がかなり増えてきている。1日数人ずつで皆さん行けるような形をとったり、希望にできるだけ添えるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は家族の同意のもと所持して頂き、買い物や受診時の支払いを自分でして頂いている。事業所管理の方も外出時には財布を渡し、支払いを自分でこなしてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホール内の電話は希望時に自由に使用してもらっている。また携帯電話を所持されている方もある。要望があれば職員が手紙の代筆を行なう事もある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間には季節の花を飾り、掲示板には季節を感じられる飾りつけを行なうようにしている。	多くの時間を過ごされるリビングは、明るい陽射しが差し込み、窓辺の花や、いろいろな作品が季節感を感じさせている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席位置に配慮し、気の合う方向同士が楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みのものを持ち込んで頂くように伝え、家具の配置など本人が使い勝手の良いように相談しながら配置するようにしている。	出窓のような所に花を飾ったり、使いやすいように家具等も配置されている。家での物も、できるだけ持ち込んでもらうよう声がけしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札があり、自分の名前を確認されている。夜間も安全にホール内を歩けるように階段室の電気は常に灯し、居室入り口付近には足元灯を設置している。		